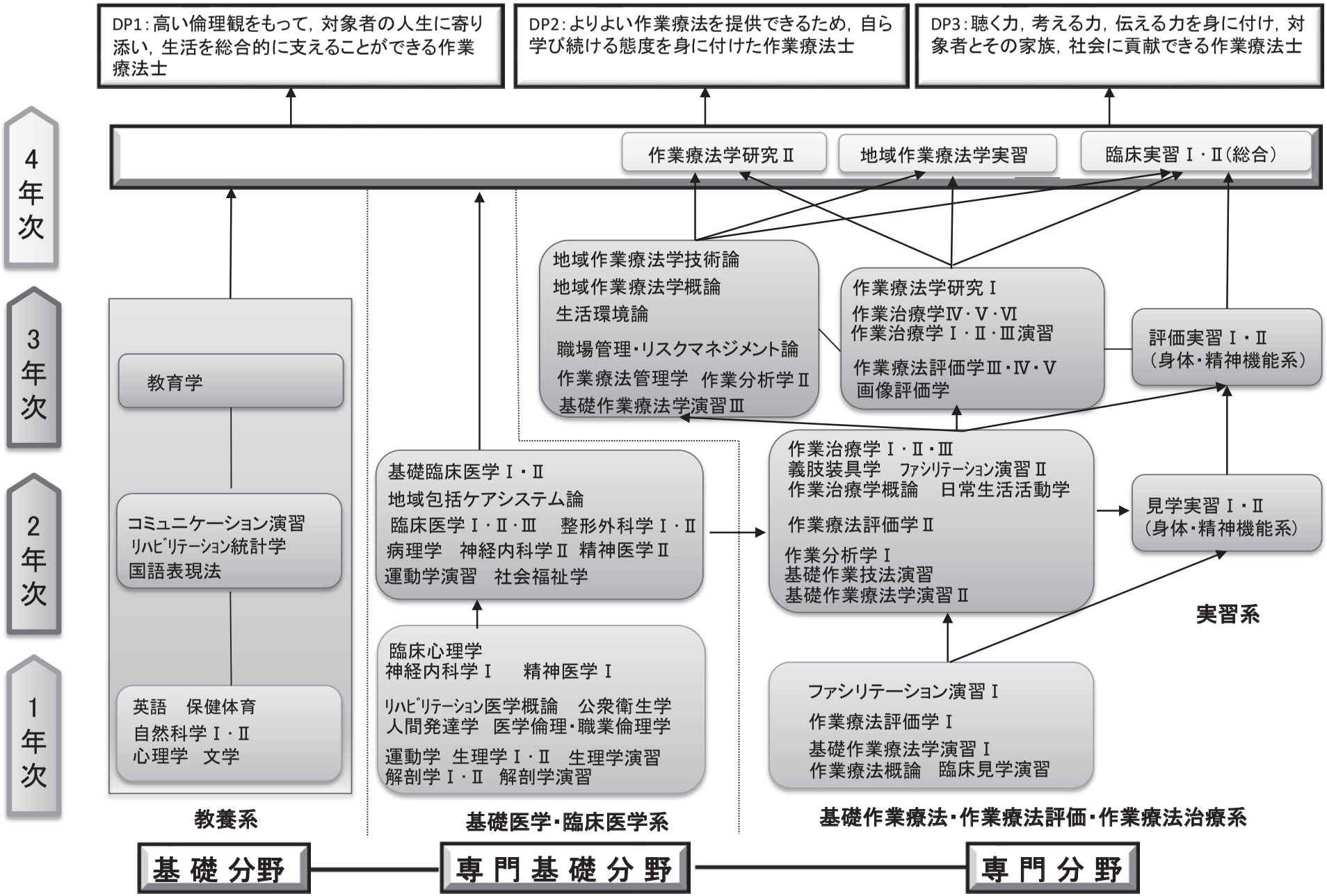
作業療法学科　カリキュラム

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	2	30							2	30		
		文学	2	30							2	30		
		国語表現法			2	30					2	30		
		自然科学Ⅰ	2	30							2	30	物理学・数学系	
		自然科学Ⅱ	2	30							2	30	生物学系	
		英語	2	30							2	30		
		保健体育	1	30							1	30	講義・実技	
		教育学					2	30			2	30		
		リハビリテーション統計学			2	30					2	30		
		コミュニケーション演習			2	60					2	60		14
	基礎分野	小計	11	180	6	120	2	30	0	0	19	330		14
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	4	60							4	60		
		解剖学Ⅱ	4	60							4	60		
		解剖学演習	1	30							1	30		
		生理学Ⅰ	4	60							4	60		
		生理学Ⅱ	4	60							4	60		
		生理学演習	1	30							1	30		
		運動学	4	60							4	60		
		運動学演習			1	30					1	30		
		人間発達学	2	30							2	30		12
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学			2	30					2	30		
		神経内科学Ⅰ	2	30							2	30		
		神経内科学Ⅱ			2	30					2	30		
		精神医学Ⅰ	2	30							2	30		
		精神医学Ⅱ			2	30					2	30		
		臨床心理学	2	30							2	30		
		整形外科学Ⅰ			2	30					2	30		
		整形外科学Ⅱ			2	30					2	30		
		基礎臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	栄養・救急救命・予防	
		基礎臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	薬学・画像	
		臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	外科学・脳神経外科学	
		臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	内科学・小児科学	
		臨床医学Ⅲ			2	30					2	30	一般臨床医学	14
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		
		社会福祉学			1	15					1	15		
		医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30		
		公衆衛生学	1	15							1	15		
		地域包括ケアシステム論			2	30					2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む	4
	専門基礎分野	小計	35	555	24	375	0	0	0	0	59	930		30

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	1	30							1	30		
		作業分析学Ⅰ			1	30					1	30		
		作業分析学Ⅱ					1	30			1	30		
		基礎作業技法演習			2	60					2	60		
		臨床見学演習	1	30							1	30		
		基礎作業療法学演習Ⅰ	2	60							2	60		
		基礎作業療法学演習Ⅱ			2	60					2	60		
		基礎作業療法学演習Ⅲ					1	30			1	30		5
	作業療法管理学	職場管理・リスクマネジメント論					1	30			1	30		
		作業療法管理学					1	30			1	30	作業療法教育及び職業倫理含む	2
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		
		作業療法評価学Ⅱ			1	30					1	30		
		作業療法評価学Ⅲ					2	60			2	60		
		作業療法評価学Ⅳ					1	30			1	30		
		作業療法評価学Ⅴ					1	30			1	30		
		画像評価学					1	30			1	30		5
	作業療法治療学	作業療法治療学概論			1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅰ			1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅰ演習					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅱ			1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅱ演習					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅲ			1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅲ演習					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅳ					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅴ					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅵ					1	30			1	30	喀痰等の吸引含む	
		日常生活活動学			1	30					1	30		
		義肢装具学			1	30					1	30		
		ファシリテーション演習Ⅰ	1	30							1	30		
		ファシリテーション演習Ⅱ			1	30					1	30		
		作業療法学研究Ⅰ					1	30			1	30		
		作業療法学研究Ⅱ							1	40	1	40	卒業論文作成含む	19
	地域作業療法学	地域作業療法学概論					1	30			1	30		
		生活環境論					2	60			2	60		
		地域作業療法学技術論					1	30			1	30		4
	臨床実習	見学実習Ⅰ(身体機能系)			1	40					1	40		
		見学実習Ⅱ(精神機能系)			1	40					1	40		
		評価実習Ⅰ(身体機能系)					3	120			3	120		
		評価実習Ⅱ(精神機能系)					3	120			3	120		
		臨床実習Ⅰ(総合)							8	360	8	360		
		臨床実習Ⅱ(総合)							8	360	8	360		
		地域作業療法学実習							1	40	1	40		22
	専門分野	小計	6	180	15	470	31	990	18	800	70	2440		57
		総計	52	915	45	965	33	1020	18	800	148	3700		101

作業療法学科カリキュラムツリー

2020.3.2



2　年　次

令和５年度　前学期

時　間　割

作業療法学科　２年

		月	火	水	木	金
1	9:00～ 10:30		臨床医学Ⅲ 西田	臨床医学Ⅲ 冬田 社会福祉学 井上	基礎作業療法学 演習Ⅱ 渕野, OT講師	整形外科学Ⅰ 髙井浩和
2	10:40～ 12:10	運動学演習 田河	国語表現法 村田	作業療法評価学Ⅱ 渕野, 池田	神経内科学Ⅱ 髙木	
3	13:10～ 14:40	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ演習 田河, 矢形	整形外科学Ⅰ 中島	基礎作業技法演習 藤岡, 宮田, 田河, 矢形, 池田	臨床医学Ⅱ 岩谷, 髙木	臨床医学Ⅲ 小松 整形外科学Ⅰ 髙井聖子
4	14:50～ 16:20		精神医学Ⅱ 宮内, 杉本, 白石	整形外科学Ⅰ 中根 基礎作業技法演習 藤岡, 宮田, 田河, 矢形, 池田	臨床医学Ⅲ 﨑山	整形外科学Ⅰ 髙井聖子

令和５年度　後学期

時　間　割

作業療法学科　２年

		月	火	水	木	金
1	9:00～ 10:30	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ統計学 松田	日常生活活動学 渕野	病理学 山本	義肢装具学 本田	義肢装具学 石内 基礎作業療法学演習Ⅱ 渕野, OT講師
2	10:40～ 12:10	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ統計学 松田 ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝ演習Ⅱ 矢形	整形外科学Ⅱ 宮本		作業療法治療学Ⅰ 渕野, 田河	作業分析学Ⅰ 渕野
3	13:10～ 14:40	臨床医学Ⅰ 廣田	作業療法治療学Ⅲ 矢形	地域包括ｹｱｼｽﾃﾑ論 髙木 基礎臨床医学Ⅰ 嶋津	臨床医学Ⅰ 末吉 作業療法治療学Ⅱ 髙木	基礎臨床医学Ⅱ 馬場
4	14:50～ 16:20		基礎臨床医学Ⅰ 池田	基礎臨床医学Ⅰ 嶋津	基礎臨床医学Ⅱ 森	作業療法治療学概論 髙木

※「時間割」は変更されることがあります。

目次：作業療法学科２年次

国語表現法 …… 139
リハビリテーション統計学 …… 140
コミュニケーション演習 …… 141
運動学演習 …… 142
病理学 …… 143
神経内科学Ⅱ …… 144
精神医学Ⅱ …… 144
整形外科学Ⅰ …… 145
整形外科学Ⅱ …… 146
基礎臨床医学Ⅰ …… 147
基礎臨床医学Ⅱ …… 148
臨床医学Ⅰ …… 149
臨床医学Ⅱ …… 150
臨床医学Ⅲ …… 151
社会福祉学 …… 152
地域包括ケアシステム論 …… 153
作業分析学Ⅰ …… 154
基礎作業技法演習 …… 155
基礎作業療法学演習Ⅱ …… 157
作業療法評価学Ⅱ …… 158
作業療法治療学概論 …… 159
作業療法治療学Ⅰ …… 160
作業療法治療学Ⅱ …… 161
作業療法治療学Ⅲ …… 162
日常生活活動学 …… 163
義肢装具学 …… 164
ファシリテーション演習Ⅱ …… 165
見学実習Ⅰ（身体機能系） …… 166
見学実習Ⅱ（精神機能系） …… 167

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	国語表現法
代表講師	村　田　由　美				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	文章を書くための基礎知識を学び、作業療法研究論文の要約を通して論文の読み方や書き方のポイントを学ぶ。				
到達目標	研究論文を 600 字程度で要約できるようになる。また、口頭発表で自分の考えを簡潔に述べられるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（60%）、レポート（40%）				
テキスト・教材等	適宜プリント配付				

回　数	授　業　内　容
第１回	本講義の目的と課題、研究論文についての説明
第２回	文章の書き方 ⑴ 基本的な文章の書き方
第３回	〃　⑵ 悪文を書かないために　演習⑴
第４回	研究論文抄読 ① 研究論文の要約
第５回	文章の書き方 ⑶ 推敲の方法
第６回	研究論文抄読 ② 研究論文の要約
第７回	口頭発表 ⑴ 口頭発表の方法と実践⑴
第８回	研究論文抄読 ③ 研究論文の要約
第９回	口頭発表 ⑵ 口頭発表の実践⑵
第10回	研究論文抄読 ④ 研究論文の要約
第11回	口頭発表 ⑶ 口頭発表の実践⑶
第12回	研究論文抄読 ⑤ 研究論文の要約
第13回	口頭発表 ⑷ 口頭発表の実践⑷
第14回	研究論文抄読 ⑥ 研究論文の要約
第15回	試　験

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	リハビリテーション統計学
代表講師	松　田　隆　治　（所属：福岡国際医療福祉大学）				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授業概要	統計学は、ある事象・現象が起こる可能性を判断したり推測したりする際に、主観的なあるいは経験値での判断ではなく、客観的にその事象・現象が起こるまたは起こらない可能性を示すために用いる手法である。この授業では、基礎的な統計手法を理解し、統計用ソフトを用いて統計処理ができることを目的とする。				
到達目標	１．統計学の必要性を理解する。 ２．臨床で必要な統計手法の基礎を理解する。 ３．具体的な統計手法を使うことができる。 ４．コンピューターを用いた統計処理を行うことができる。				
成績評価の方法と基準	各授業ごとの復習課題：40%　筆記試験：60%				
テキスト・教材等	『15 レクチャーシリーズ　リハビリテーションテキスト　リハビリテーション統計学』				

回　数	授　業　内　容
第１回	【統計学の基礎：text　p.１～p.　８】１）統計学の概略について　２）統計解析の必要性について　３）統計解析の実際について　４）授業で使うデータ用のアンケート実施 (key words) ①数理統計学・記述統計学・推測統計学・探索的データ解析
第２回	【データの尺度・特性値・グラフ：text　p.９～p.16】１）尺度分類・４つの尺度の相違点について　２）データの特性について　３）目的別のグラフについて (key words) ①名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度　②平均・中央値・最頻値・分散・標準偏差・範囲・四分位範囲　③ヒストグラム・箱ひげ図・エラーナーグラフ・散布図・分割表
第３回	【推定と検定の基礎：text　p.17～p.28】１）推定と検定　２）検定の概略　３）検定の実際 (key words) ①標本・正規分布・平均　②帰無仮説・対立仮説・有意確率・95%信頼区間　③効果量（text　p.44 表１参照）
第４回	【2 標本の差の検定：パラメトリック法（1）：text　p.29～p.36】１）差の検定　２）2 標本の差の検定　３）2 標本の差の検定の手順　４）適用の注意点 (key words) ①差の検定・対応のある差・2 標本の差・対応のある差・3 標本以上の差　②2 標本 t 検定・シャピロウイルクの検定・ウェルチの検定　③第Ⅰ種の過誤・第Ⅱ種の過誤
第５回	【1 標本の差の検定：パラメトリック法（2）：text　p.37～p.44】１）1 標本の差の検定　２）対応ありと対応なしの違い　３）対応ある t 検定を行う手順　４）適用の注意点 (key words) ①1 標本の差の検定・対応あり・対応なし・対応のある t 検定・母平均の差の検定
第６回	【差の検定：ノンパラメトリック法：text　p.45～52】１）ノンパラメトリック法の適用　２）マンホイットニーの検定　３）ウィルコクソンの検定　４）ノンパラメトリック法による結果の解釈における注意点 (key words) ①尺度　②データ分布　③対応あり　④対応なし　⑤差の検定の選択手順
第７回	【相関：text　p.53～p.62】１）相関の概略　２）相関係数　３）相関の解析における注意点　４）相関係数の検定を行う手順　５）結果の解釈における注意点　６）名義尺度の相関・散布図・相関の検定） (key words) ①変量と変数　②正の相関　③負の相関　④無相関　⑤相関係数の強さ　⑥外れ値
第８回	【回帰分析・重回帰分析：text　p.63～p.78】１）回帰分析・重回帰分析の概略　２）相関の解析と回帰分析および重回帰分析　３）回帰分析・重回帰分析の手順　４）回帰分析・重回帰分析を行う場合の注意点 (key words) ①回帰式　②決定係数　③寄与率　④標準偏回帰係数
第９回	【分割表の検定：text　p.79～p.84】１）分割表の概略　２）分割表の検定　３）分割表の検定における注意点 (key words) ①クロス集計表　②χ二乗検定　③観察度数　④期待度数　⑤残差
第10回	【一元配置分散分析・反復測定の分散分析：text　p.85～p.100】１）一元配置分散分析・反復測定の概略　２）一元配置分散分析・反復測定の基礎事項　３）多重比較　４）一元配置分散分析・反復測定の手順　５）適用と結果記載の注意点 (key words) ①多群比較　②対応のない要因　③対応のある要因　④ポストホック検定　⑤クラスカル・ワリス検定⑥フリードマン検定
第11回	【多重ロジスティック回帰分析：text　p.111～p.120】１）多重ロジスティック回帰分析の概略　２）多重ロジスティック回帰分析の基礎事項　３）多重ロジスティック回帰分析の手順　４）適用の注意点 (key words) ①2 群の従属変数　②オッズ比・95%信頼区間　③χ二乗検定　④ホスマー・レメショウの検定
第12回	統計処理の実際１（平均値の差の検定の事例）
第13回	統計処理の実際２（相関分析・回帰分析・分割表検定の事例）
第14回	統計処理の実際３（一元配置分析・その他の事例）
第15回	試　験

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活　社会の理解	科目名	コミュニケーション演習
代表講師	田　河　和　代（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30 回（60 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として実務経験のある教員や卒業生などが、医療従事者になるために必要なコミュニケーション能力を身につけるため講義を行う。				
授業概要	・医療従事者になる為に必要なコミュニケーション能力に対する講義を行う ・臨床現場で勤務している卒業生、身体障がい・大腿切断を受傷した当事者へのインタビューを実施する				
到達目標	・医療従事者になる為に必要なコミュニケーションスキルを身につけることができる ・対象者のに寄り添い、共感的・受容的態度で接することができる				
成績評価の方法と基準	各項目での課題レポート（70%）、学習ポートフォリオ（20%）、ピア評価（10%）				
テキスト・教材等	『心理学マニュアル 面接法』、『ＰＴ・ＯＴのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	コミュニケーションとは：医療従事者に必要なコミュニケーションとは －自分を知る－	田河和代
第２回	コミュニケーションとは：医療従事者に必要なコミュニケーションとは －自分を知る－	〃
第３回	コミュニケーションの基礎：「対人技術」「相談」「面接技術」の基礎を学ぶ	〃
第４回	コミュニケーションの基礎：「対人技術」「相談」「面接技術」の基礎を学ぶ	〃
第５回	コミュニケーションの基礎：接遇演習 接遇マナー	矢形あゆみ
第６回	コミュニケーションの基礎：相談的面接法の概観	〃
第７回	コミュニケーションの応用：相談的面接法の演習 傾聴訓練（紙上応答構成）	〃
第８回	コミュニケーションの応用：相談的面接法の演習 傾聴訓練（ロールプレイ）	〃
第９回	コミュニケーションの応用：情報リテラシーについて学ぶ	田河和代
第10回	コミュニケーションの応用：災害時の対応	〃
第11回	コミュニケーションの応用：コミュニケーションスキルの向上のために	〃
第12回	コミュニケーションの応用：コミュニケーション演習	〃
第13回	コミュニケーションの応用：障害受容について考える	〃
第14回	コミュニケーションの応用：大腿骨切断・脊髄損傷を受傷した方へのインタビューを企画する	〃
第15回	コミュニケーションの応用：大腿切断し義足で活躍されている作業療法士の方へのインタビュー実施	〃
第16回	コミュニケーションの応用：大腿切断し義足で活躍されている作業療法士の方へのインタビュー実施	〃
第17回	コミュニケーションの応用：身体障がいを受傷した方へのインタビュー実施	〃
第18回	コミュニケーションの応用：身体障がいを受傷した方へのインタビュー実施	〃
第19回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 インタビュー企画	田河和代 矢形あゆみ
第20回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 インタビュー企画	〃
第21回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 インタビュー準備	〃
第22回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 インタビュー準備	〃
第23回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩１ インタビュー実施	〃
第24回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩１ インタビュー実施	〃
第25回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩２ インタビュー実施	〃
第26回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩２ インタビュー実施	〃
第27回	ようこそ先輩インタビューに対するまとめ	〃
第28回	ようこそ先輩インタビューに対するまとめ	〃
第29回	ようこそ先輩インタビューに対する成果発表	〃
第30回	コミュニケーション演習全体に対するまとめ・成果発表	〃

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学演習
代表講師	田　河　和　代（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、身体運動の基礎知識を踏まえ、身体運動における関節運動と筋の作用、筋の触察について指導する。				
授業概要	身体運動における筋骨格系の構造・機能と関節運動、力学原理に基づく運動の記述と解釈、正常な関節構成体の骨や筋の構造、体表からの指針と触察について講義と実技を行う。				
到達目標	１．筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係を説明することができる。 ２．力学原理に基づく運動の記述と解釈について説明することができる。 ３．正常な関節構成体の骨や筋の構造を指し示し、体表から視診・触診することができる。				
成績評価の方法と基準	事後小テスト（20%）、学習ポートフォリオ（10%）、筆記試験（70%）				
テキスト・教材等	『基礎運動学』『病気がみえる〈vol.11〉運動器・整形外科学』 『新・徒手筋力検査法　原著第 10 版』、配布資料				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	肩甲帯の運動学	田河和代
第２回	上肢帯および上肢の機能解剖（肩甲帯）：骨・筋の触診	〃
第３回	肘関節・前腕の運動学	〃
第４回	上肢帯および上肢の機能解剖（肘関節）：骨・筋の触診	〃
第５回	手関節・前腕の運動学	〃
第６回	上肢帯および上肢の機能解剖（手・指）：骨・筋の触診	〃
第７回	股関節の運動学	〃
第８回	下肢帯および下肢の機能解剖学（股関節）：骨・筋の触診	〃
第９回	膝関節の運動学	〃
第10回	下肢帯および下肢の機能解剖学（膝関節）：骨・筋の触診	〃
第11回	足関節・足部の運動学	〃
第12回	下肢帯および下肢の機能解剖学（足関節・足部）：骨・筋の触診	〃
第13回	脊柱・体幹の運動学	〃
第14回	頭頸部・体幹の機能解剖：骨・筋の触診	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	病　理　学
代表講師	山　本　哲　郎　（元 熊本大学医学部長）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授業概要	疾病に見られる基本的な病態、すなわち、どのような原因で起こり（病因）、どのような変化を生じ（病変）、どのように推移し（経過）、最終的にどうなるのか（転帰）などを総論的に講義する。				
到達目標	医療従事者として必要な医学・医療について基礎的知識を修得し、説明できるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100％				
テキスト・教材等	『わかりやすい病理学』				

回　数	授　業　内　容
第１回	病理学と病因：現在の医学・医療分野において、病理学のはたす役割と、さまざまな疾病の原因について講義する。
第２回	代謝異常①：細胞・組織の変性・壊死・萎縮および代謝産物の異常沈着などの退行性病変や、糖尿病などの糖代謝異常について講義する。
第３回	代謝異常②：肥満や動脈硬化などの脂質代謝異常、低蛋白質血症や痛風などの蛋白質や核酸の代謝異常について講義する 。
第４回	循環障害①：虚血と梗塞、充血とうっ血、局所的な側副循環と肝硬変に伴う全身性側副循環、出血と出血傾向について講義する。
第５回	循環障害②：血栓症と塞栓症およびＤＩＣ、全身性循環不全であるショックと浮腫について講義する。
第６回	進行性病変：創傷治癒および骨折の治癒過程の病理学的変化を講義し、肉芽形成の重要性について理解させる。
第７回	炎症①：炎症の原因、滲出と増殖などの基本的な病理組織学的変化およびそこに誘導される様々な化学伝達物質について講義する。
第８回	炎症②：肺結核症や肝炎および消化管の炎症などの代表的な炎症性疾患について講義する。また、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの理解に必要な免疫のメカニズムについて理解させる。
第９回	免疫異常：Ｉ型～Ｖ型のアレルギー疾患や慢性関節リウマチなどの自己免疫疾患及び腫瘍性免疫異常疾患について講義する。
第10回	感染症：病原微生物の定着と発症、宿主反応、感染の経過および日和見感染や院内感染などについて講義し、疾病の病因として重要な感染症の基礎について理解させる。
第11回	腫瘍①：腫瘍の肉眼的特徴および組織学的特徴、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて講義する。
第12回	腫瘍②：腫瘍の浸潤転移の様式、宿主との関係、疫学的分野について講義する。
第13回	腫瘍③：腫瘍の発生の原因と仕組み、癌遺伝子と癌抑制遺伝子、腫瘍の分類について講義する。
第14回	先天異常：遺伝子異常、染色体異常、妊娠初期の胎芽期の異常および胎児期の異常に伴う先天性疾患について、講義する。
第15回	試　験

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	神経内科学Ⅱ
代表講師	髙　木　勝　隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	リハビリテーションに関わる神経疾患を中心として講義を行う。				
到達目標	脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患の病態について説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（100％）				
テキスト・教材等	『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 神経内科学』、『病気がみえる〈vol. 7〉脳・神経』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	A：脳血管障害　脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血	池田裕輔
第２回	A：脳血管障害　脳動脈瘤、脳血管奇形、頭蓋内・外動脈解離、ウィリス動脈閉塞症	〃
第３回	B：認知症　アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、正常圧水頭症、クロイツフェルト・ヤコブ病	田河和代
第４回	C：頭蓋内圧亢進症、D：頭部外傷、E：脳腫瘍	池田裕輔
第５回	F：変性性神経疾患　筋萎縮性側索硬化症　脊髄小脳変性症　多系統萎縮症	渕野浩二
第６回	F：変性性神経疾患　脊髄小脳変性症　多系統萎縮症	池田裕輔
第７回	F：変性性神経疾患　Parkinson 病　パーキンソンニズム　ハンチントン病	田河和代
第８回	G：脱髄疾患　多発性硬化症　視神経脊髄炎	〃
第９回	H：感染性疾患　髄膜炎・脳炎、HTLV-1、急性灰白髄炎、スピロヘータ、プリオン病	髙木勝隆
第10回	I：脊髄疾患	渕野浩二
第11回	J：代表的なニューロパチー　ギラン・バレー症候群	〃
第12回	K：代表的なミオパチー　筋ジストロフィー症　L：その他の筋疾患　重症筋無力症	髙木勝隆
第13回	M：小児神経疾患　脳性麻痺、知的障害、二分脊椎	矢形あゆみ
第14回	N：機能性疾患　頭痛、てんかん、ナルコレプシー	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	精神医学Ⅱ
代表講師	医師：宮内　大介、精神保健福祉士：白石　耕平・杉本　篤史（所属：くまもと悠心病院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	教科書、プリントを用いて講義を行い、問題演習にて講義のふりかえりを行う。				
到達目標	精神保健、支援の仕組みの理解				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『《系統看護学講座　別巻》精神保健福祉』、『《標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野》精神医学』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	精神保健総論	宮内大介
第２回	ライフサイクルと精神保健	〃
第３回	精神医療の歴史	杉本篤史
第４回	精神保健福祉に関する法律	白石耕平
第５回	こころのケアと治療（ケアマネジメント、チームアプローチ）	杉本篤史
第６回	精神保健福祉の変遷と動向	白石耕平
第７回	精神障害者の在宅支援	杉本篤史
第８回	特定の状況に対する精神保健福祉（貧困、虐待）	白石耕平
第９回	地域生活支援の展開	杉本篤史
第10回	特定の状況に対する精神保健福祉（依存症）	白石耕平
第11回	認知症の支援について	杉本篤史
第12回	高齢者の医療、福祉、介護について①	白石耕平
第13回	高齢者の医療、福祉、介護について②	〃
第14回	まとめ	宮内大介
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	整形外科学Ⅰ
代表講師	中　根　惟　武　（所属：熊本機能病院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授業概要	整形外科の基礎的知識を修得する。 臨床学習を目的とする。 臨床の場において役に立つ疾患の基礎を学ぶ。				
到達目標	患者に疾患の説明ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100％				
テキスト・教材等	『標準整形外科学』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	骨関節総論：骨の役割、骨の分類、骨の構造、栄養、成長、関節の動き（拘縮、強直）など	中根惟武
第２回	股関節各論：小児股関節疾患（先股脱、ペルテス、すべり症）	〃
第３回	股関節各論：変形性股関節症、大腿骨頭壊死	〃
第４回	末梢神経：腕神経叢麻痺	中島英親
第５回	外傷：再接着	〃
第６回	肘、上腕、前腕、手根骨：肘周辺骨折、上腕骨骨折、前腕骨折、手根骨骨折	〃
第７回	手関節、手指、スポーツ外傷：キーンベック病、ＣＭ関節症、野球肘、テニス肘	〃
第８回	手指：Swan neck deformity,mallet finger, RSD	〃
第９回	末梢神経：正中、尺骨、橈骨神経	髙井聖子
第10回	肩：rotator cuff,codman rhythm	〃
第11回	膝関節各論：膝内障	髙井浩和
第12回	膝関節各論：変形性膝関節症、シャルコー関節	〃
第13回	骨折総論：骨折の分類、骨瘡合の経過、骨折の治療など	〃
第14回	骨折総論：小児骨折、老人骨折	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	整形外科学Ⅱ
代表講師	宮　本　和　彦（所属：熊本赤十字病院） 髙　木　勝　隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授業概要	整形外科の基礎的知識を修得する。 臨床学習を目的とする。 臨床の場において役に立つ疾患の基礎を学ぶ。				
到達目標	患者に疾患の説明ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100％				
テキスト・教材等	『標準整形外科学』、『病気が見える＜ vol.11 ＞運動器・整形外科』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	脊 椎 頚部：斜径・頚部椎間板ヘルニア・OPLL・リウマチ性脊椎炎	宮本　和彦
第２回	脊 椎 胸部：胸郭疾患・側弯症	〃
第３回	脊 椎 腰部：分離すべり症・変形性脊椎症・脊柱管狭窄、強直性脊椎炎	〃
第４回	脊 椎 腰部：椎間板ヘルニア・骨粗鬆症・脊椎脊髄腫瘍	〃
第５回	脊 椎・脊 髄：脊椎損傷・脊髄損傷・むちうち損傷	〃
第６回	軟部組織・骨・関節の感染症を学習する	〃
第７回	関節リウマチやその類縁疾患について学習する	〃
第８回	代表的な代謝性疾患について学習する	〃
第９回	代表的な代謝性疾患について学習する	〃
第10回	骨関節疾患：変形性足関節症・痛風・偽痛風・神経病性関節症・滑液包炎・異所性骨化・骨化性筋炎	髙木　勝隆
第11回	四肢循環障害と阻血性壊死性疾患：四肢循環障害・骨壊死（一次・二次）	〃
第12回	足関節・足部：足部変形・絞扼性神経障害・骨端症・無腐性壊死	〃
第13回	股関節：大腿骨頚部骨折・大腿骨転子部骨折・人工関節置換術	〃
第14回	切断・離断：上肢・下肢・手指・足趾	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	基礎臨床医学Ⅰ
代表講師	嶋　津　さゆり（所属：熊本リハビリテーション病院） 池　田　裕　輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授業概要	（嶋津）高齢社会の日本では、元気な高齢者作るために機能訓練と栄養管理は重要です。リハビリテーションと栄養管理は同時に考える必要性があります。栄養の重要性を説明します。 （池田、非常勤講師） 健康、疾病及び障害について、その予防に関する基礎知識を習得し、高度化する医療ニーズに対応するため栄養学、救急救命の基礎を学ぶ。				
到達目標	（嶋津）対象者の栄養状態を確認しながら機能訓練を行うセラピストになる。 （救急）救急救命の基礎として、赤十字ベーシックライフサポーターの検定に合格すること。 （池田）予防の基礎について説明することができる。				
成績評価の方法と基準	救急救命の基礎：資格取得をもって評価とする。 栄養学：授業内にて課題を提出することでその課題内容にて評価する。 予防の基礎：筆記試験 100％				
テキスト・教材等	（嶋津）『リハベーシック生化学・栄養学』、（池田）『シンプル衛生 公衆衛生学 2022』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	オリエンテーション、管理栄養について	嶋津さゆり
第２回	栄養の基礎（生化学・代謝等）	〃
第３回	栄養アクセスについて（経腸栄養・静脈栄養）	〃
第４回	病態別栄養法について	〃
第５回	リハビリテーション栄養について	〃
第６回	サルコペニア・フレイル・ロコモティブシンドロームについて	〃
第７回	嚥下調整食と食事介助と栄養のまとめ	〃
第８回	救急救命の基礎①：心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置（BLS）の概要	非常勤講師
第９回	救急救命の基礎②：手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED（自動体外式除細動器）を用いた除細動などを救急救命の基礎演習①	〃
第10回	救急救命の基礎③：手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED（自動体外式除細動器）を用いた除細動などを救急救命の基礎演習②	〃
第11回	予防の基礎①（予防の概念、疾病の予防、障害の予防、他）	池田裕輔
第12回	予防の基礎②（一次予防、二次予防、三次予防、他）	〃
第13回	予防の基礎③（ライフスタイルと行動変容、他）	〃
第14回	予防の基礎（まとめ）	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	基礎臨床医学Ⅱ
代表講師	馬　場　祐　之　（所属：熊本赤十字病院） 森　　直　樹　（所属：御幸病院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授業概要	〈馬場〉 各種画像診断の原理から実際の臨床画像について学び、臨床の場で遭遇する疾患と画像所見の関係について理解を深める。画像所見を理解する事は実際の理学療法プログラムを作成する上で重要であり、画像所見から得られた情報を他の医療スタッフと共有する事はコミュニケーションを円滑に行う上で必須である。 〈森〉 適正な薬物治療に関わる基本部分を学習することを通じ、医療現場における薬剤師等との関わり方についても含めて講義する。				
到達目標	〈馬場〉 画像を構成する要素・原理について理解した上で、疾患毎の代表的な画像所見を解析し、病態を把握できる事を目標とする。 〈森〉 ・代表的な薬の作用，副作用，体に入り出ていくまでに関する基礎的知識を習得する。 ・薬物治療が主体となる疾患についての薬物療法の基本的知識を習得する。				
成績評価の方法と基準	〈馬場〉paper test　〈森〉筆記試験				
テキスト・教材等	〈馬場〉『リハビリテーション医療に活かす画像のみかた　症例から学び障害を読み解く』 〈森〉『リハベーシック　薬理学・臨床薬理学』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	画像診断の原理　単純XP／CT／MRI／RI／US	馬場祐之
第２回	脳のCT　脳出血などの画像所見	〃
第３回	脳のMRI　脳梗塞などの画像所見	〃
第４回	脳血管障害以外の中枢神経疾患・脳腫瘍など	〃
第５回	脊椎・脊髄の画像診断・脊椎転移・骨折など	〃
第６回	上肢疾患の画像診断　肩関節・肘関節・骨折	〃
第７回	下肢疾患の画像診断　大腿骨頸部骨折・膝関節・アキレス腱	〃
第８回	薬による病気の治療、役割、作用・副作用の仕組み、剤形について概説できる	森　直樹
第９回	薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）と相互作用について概説できる	〃
第10回	感染・炎症の制御と呼吸器の治療薬について理解できる	〃
第11回	疼痛の制御と治療薬、睡眠薬について理解できる	〃
第12回	循環器系の病態（高血圧・狭心症等）と薬剤について理解できる	〃
第13回	代謝性疾患（糖尿病・骨粗鬆症等）の治療薬について理解できる	〃
第14回	中枢神経系の病態（パーキンソン病等）と薬剤について理解できる	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨 床 医 学 Ⅰ
代 表 講 師	廣　田　昌　彦（所属：長崎国際大学） 末　吉　博　之（所属：熊本大学病院）				
授 業 方 法	講　義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	（廣田）外科的疾患の病態と診断、治療の理解 （末吉）脳、神経の正常構造と疾患について （池田）神経疾患に関わる検査と画像診断について学ぶ。				
到 達 目 標	（廣田）外科的疾患の病態と診断、治療の理解 （末吉）卒後の理学療法、作業療法活動を行う為に、中枢神経系の特殊性を理解し、診療に役立つように脳神経疾患の臨床知識を習得する 。 （池田）神経疾患に関わる検査について説明することができる。また、画像診断について疾患名と画像を判断することができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	（廣田）『わかりやすい外科学』 （末吉）『病気がみえる〈vol.7〉脳・神経』 （池田）『病気がみえる〈vol.7〉脳・神経』				

回　数	授　　業　　内　　容	担当講師
第１回	外科学の歴史と進歩、麻酔、感染、消毒、基本外科手技	外科学 （廣田昌彦）
第２回	外科侵襲と生体反応、炎症、体液、栄養管理	〃
第３回	外科腫瘍学、内分泌外科、乳腺外科	〃
第４回	胸部外科（肺・縦隔・心・血管外科）	〃
第５回	消化器外科（上部消化管）	〃
第６回	消化器外科（下部消化管、腹膜疾患）	〃
第７回	消化器外科（肝・胆・膵　外科）	〃
第８回	脳・神経の基礎１：神経系の構造と機能、症候	脳神経外科学 （末吉博之）
第９回	脳・神経の病態：脳動脈と血管障害	〃
第10回	脳・神経の基礎２：運動、感覚、自律神経	〃
第11回	神経・筋の異常１：脱髄疾患、神経変性疾患、認知症、てんかん など	〃
第12回	神経・筋の異常２：先天奇形、脳腫瘍、頭部外傷 など	〃
第13回	検査・神経診察に用いる検査	脳神経外科学 （池田裕輔）
第14回	画像診断：神経疾患の画像供覧	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨 床 医 学 Ⅱ
代 表 講 師	岩　谷　典　学（所属：熊本県総合保健センター） 髙　木　勝　隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	（岩谷）小児の特徴は常に成長・発達していることである。出生から思春期にわたる各時期の身体の形態や機能の特徴、小児特有の疾患について学び、また疾患と障害との関連性について理解し、小児リハビリテーションに活かすことができる。 （髙木）理学療法士、作業療法士として、患者への医学的リハビリテーションを的確に実施するために、必要な基礎知識としての内科学を総合的視点から理解する。				
到 達 目 標	（岩谷）小児の特徴は常に成長・発達していることである。出生から思春期にわたる各時期の身体の形態や機能の特徴、小児特有の疾患について学び、また疾患と障害との関連性について理解し、小児リハビリテーションに活かすことができる。 （髙木）理学療法士、作業療法士として、患者への医学的リハビリテーションを的確に実施するために、必要な基礎知識としての内科学を総合的視点から理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100％				
テキスト・教材等	（岩谷）『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学（第６版）』、配布資料 （髙木）『＜標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野＞内科学』、『＜標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野＞老年学』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	内科学総論：内科学について、内科学を学ぶ意義 代謝性疾患：代謝調節の仕組み、糖尿病の分類と症状、PT・OT との関連事項	一般内科学 （坂崎浩一）
第２回	循環器、血液・造血器疾患： 解剖、生理、症候、病態、疾患各論、心臓・腎リハビリテーション、PT・OT との関連事項 形態、生理、症候、病態、疾患各論、PT・OT との関連事項	渕野浩二
第３回	呼吸器疾患、感染症： 解剖、生理、症候、病態、疾患各論、呼吸リハビリテーション、PT・OT との関連事項 院内感染、予防、PT・OT との関連事項	加藤孝則
第４回	消化管、肝・胆・膵疾患：解剖、生理、症候、病態、疾患各論、PT・OT との関連事項	池田耕治
第５回	内分泌、アレルギー・膠原病・免疫不全症： 仕組み、生理、症候、病態、疾患各論、PT・OT との関連事項 免疫系の働き、症候、疾患各論、PT・OT との関連事項	髙木勝隆
第６回	老年学総論と高齢者へのアプローチ：加齢と老化、高齢者との接し方、評価（ 機能、栄養状態、臨床検査値 ）と薬物療法　p1 ～ p96	池田裕輔
第７回	高齢者に特徴的な症候と老年症候群　p99 ～ p127	〃
第８回	高齢者の疾患について 1)13 循環器疾患～ 21 泌尿器疾患　p128 ～ p246（ 内科学での復習と相違点 ） 2)22 骨粗鬆症と運動器疾患～ 29 東洋医学　p247 ～ p319（ 要点のみ ）	次山航平
第９回	高齢者をとりまく環境とリハビリテーションについて p323 ～ 394	〃
第10回	小児の成長と発達の特徴と評価法、小児期に特徴的な生理機能	小児科学 （岩谷典学）
第11回	新生児および周産期疾患：低出生体重児、新生児仮死、新生児の呼吸障害など	〃
第12回	遺伝子・染色体異常、先天代謝異常症など	〃
第13回	中枢神経疾患、けいれん性疾患、運動器疾患、発達障がい、重症心身障がい児など	〃
第14回	その他の主な小児の疾患：感染性疾患、アレルギー・自己免疫疾患、内分泌・代謝疾患など	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨 床 医 学 Ⅲ
代 表 講 師	﨑　山　　仁（所属：健軍熊本泌尿器科）　冬　田　昌　利（所属：冬田循環器科内科医院） 西　田　健　朗（所属：熊本中央病院）　小　松　修　治（所属：熊本大学病院）				
授 業 方 法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	（﨑山）泌尿器科分野の基礎知識 （冬田）循環器疾患の診断と治療について学び理解する事。 （西田）糖代謝及び糖尿病の病態、食事･運動療法、薬物療法に加え、臨床的な知識を一括することで、糖尿病に対する総合的な知識を習得する。また、その他の代謝疾患や内分泌疾患についても、概念や特徴など、医療従事者として最低限知っておくべき知識を習得する。 （　　）呼吸のメカニズムを理解する。呼吸器疾患の病態を理解する。 （小松）患者の身体的・精神的苦しみを理解し、患者の満足が得られるように治療するために、痛みについて学ぶ				
到 達 目 標	（﨑山）尿路および男性生殖器疾患の理解 （冬田）循環器疾患の因子、原因を理解し、予防と治療について学ぶ。 （西田）糖尿病に関する知識はもとより、薬物療法、運動療法および栄養療法を学ぶことで、糖尿病のチーム医療における作業療法士の役割を認識し、医師の指示の下で糖尿病患者に療養指導を行うことについて理解する。また、その他の代謝疾患や内分泌疾患についても、概念や特徴など、基本的な点を理解する。 （　　）呼吸のメカニズムを理解する。呼吸器疾患の病態を理解する。 （小松）・痛みの定義が理解できる、痛みの多面性について説明できる。・痛みの伝導路が説明できる。 ・認知行動療法に基づくペインリハビリテーションが理解できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	（﨑山）系統看護学講座、専門分野Ⅱ、成人看護学 (8)、腎・泌尿器 （冬田）系統看護学講座、専門分野Ⅱ、循環器　成人看護学③ （西田）『糖尿病治療ガイド 2022-2023』 （　　）『《標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野》内科学』、配布資料 （小松）痛みの教育コンテンツ－理学療法士・作業療法士用				

回　数	授　　業　　内　　容	担当講師
第１回	尿路および男性生殖器の構造と生理	泌尿器科学 （﨑山　仁）
第２回	腎・泌尿器疾患（感染症・結石・腫瘍・排尿障害）	〃
第３回	循環器の解剖と生理、心臓の構造と機能。体循環と肺循環 循環機能の見方：血液と脈拍、心拍出量末梢血管抵抗、心拍出量と心係数	循環器科学 （冬田昌利）
第４回	心不全　急性心不全の診断と治療、慢性心不全の原因と治療、危険な不整脈、主な弁疾患	〃
第５回	高血圧症の診断と治療、合併症と予後、左室不全、左室肥大 腎不全、脳出血、脳梗塞、眼底出血、憎悪因子；糖尿病、高脂血症、肥満、家族歴	〃
第６回	狭心症の分類と診断、冠動脈硬化症、労作狭心症 冠動脈造影法、バルーン療法、ステント、アテロームカッター、ロータブレター	〃
第７回	心筋梗塞の診断と治療：PTCR、PTCA、CABG。急性冠症候群 冠痙攣性狭心症　合併症と予後；心原性ショック、心臓破裂	〃
第８回	代謝疾患：代謝疾患の考え方、糖尿病について（病態生理、診断、検査、疫学、分類･成因、合併症、治療）	代謝学 （西田健朗）
第９回	代謝疾患：低血糖症、その他の代謝疾患について 内分泌疾患：内分泌疾患について（病態生理、治療）	〃
第10回	肺の解剖と生理、呼吸器疾患の症候と病態生理	呼吸器科学 （　　）
第11回	臨床検査所見、呼吸器疾患各論①	〃
第12回	呼吸器疾患各論②	〃
第13回	1.「痛み」の基礎 2.「痛み」のリハビリテーション評価	疼痛管理学 （小松修治）
第14回	3.「痛み」のリハビリテーションの実際 4.「痛み」の治療法	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 2年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	社会福祉学
代表講師	井　上　ゆかり（所属：熊本学園大学）				
授業方法	講　義	単位数	1	学期・回数	前期：9回（18時間）
授業概要	社会福祉とは、社会的・生活的困難を抱える人が幸福に生きる権利をその人とともに作り出すことをいう。人間は人生の中で様々な問題を抱えて生きている。そうした1人の人間の生存を支えるには、その人らしい生活を確保し高めることが求められる。本授業では、様々な困難を抱えた人の主体性・人格的価値を尊重し、ウェルビーングを高めること（enhance wellbeing）を「社会」の仕組みとして確保しなければならないことを学ぶ。				
到達目標	社会福祉の基礎となる内容を理解し、生活の中にある課題を捉える視点を持って、社会の中の様々な課題を見つめ、援助者としてどのような方法や課題解決の営みがあるかを理解する力を身につける。				
成績評価の方法と基準	授業中のレポート：20%、定期試験：80%				
テキスト・教材等	その都度、資料教材プリントを配布				

回　数	授　業　内　容
第1回	オリエンテーション障害者差別禁止法：対象の理解とはなにか
第2回	自立と自己決定に向けた支援ー映画I am Samを通してー
第3回	最善の利益との違いー映画I am Samを通してー
第4回	地域社会から社会福祉へのアプローチ（1）：環境
第5回	地域社会から社会福祉へのアプローチ（2）：労働災害
第6回	地域社会から社会福祉へのアプローチ（3）：自然災害
第7回	低所得者と公的扶助ーコロナ過での社会的排除と社会福祉的課題
第8回	所得補償と年金制度、そして介護保険制度
第9回	試　験

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	地域包括ケアシステム論
代表講師	髙　木　勝　隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士（助言者）として地域ケア会議に参加している教員等が、対象者の自立支援に関する助言等の経験を活かし、地域包括ケアシステムに関する基本的概要について講義する。				
授業概要	地域包括ケアシステムの構築について、その概要を講義する。また、非常勤講師により、関連施設や関連職種について、その概要と役割を講義する。				
到達目標	・地域包括ケアシステム・多職種連携に関する基本的概要について説明することができる。 ・関連職種の概要と役割を説明することができる。 ・自立支援・就労支援の概要について説明することができる。				
成績評価の方法と基準	発表資料：10%、関連職種レポート：45%、筆記試験：45%				
テキスト・教材等	配布資料				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	地域包括ケアシステムとは、多職種連携、地域包括支援センター、地域ケア会議等	髙木勝隆
第２回	地域リハビリテーション広域支援センター、地域密着支援センター、認知症疾患医療センター等	〃
第３回	関連職種（介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士、保健師、看護師、言語聴覚士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、歯科衛生士他）の概要（資料作成）	〃
第４回	関連職種（介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士、保健師、看護師、言語聴覚士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、歯科衛生士他）の概要（発表）	〃
第５回	地域包括支援センターの概要と機能	非常勤講師
第６回	介護支援専門員の概要、業務内容と役割	〃
第７回	社会福祉士の概要、業務内容と役割	〃
第８回	介護福祉士の概要、業務内容と役割	〃
第９回	保健師の概要、業務内容と役割	〃
第10回	看護師の概要、業務内容と役割	〃
第11回	言語聴覚士の概要、業務内容と役割	〃
第12回	精神保健福祉士の概要、業務内容と役割	〃
第13回	医療ソーシャルワーカーの概要、業務内容と役割	〃
第14回	自立支援・就労支援	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	作業分析学Ⅰ
代表講師	渕　野　浩　二（所属 熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、作業分析の視点を身につけるため、分析意義や工程分析、動作分析等の基本的知識と方法について講義する。				
授業概要	作業分析の概要及び基礎知識について講義し、人間が行う作業や動作に対する作業分析を演習する。				
到達目標	・リハビリテーションにおける作業分析の意義を説明することができる。 ・作業分析に必要な運動学の基本的知識を学習し、運動学的分析の視点から人間行動を主として行為や動作について述べることができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（100％）				
テキスト・教材等	配布資料、『基礎運動学』、『作業療法学全書改訂第３版基礎作業学』 『動作解析　臨床活用講座　バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践』				

回　数	授　業　内　容
第１回	分析の意義、人間の行動、分析の種類と対象、姿勢（重心、安定性、姿勢）
第２回	四肢と体幹の運動（運動面、運動軸、運動方向） 頸部体幹の表面観察、呼吸における胸郭の変化
第３回	四肢と体幹の運動（運動面、運動軸、運動方向） 上肢の表面観察、肩甲上腕リズム、肩関節の内外旋
第４回	四肢と体幹の運動（運動面、運動軸、運動方向） 下肢の表面観察、二関節筋の作用
第５回	プロセスチャート、サーブリグ、オペレーションチャート
第６回	道具使用時の上肢の動作分析
第７回	把握・非把握、動きの表記、静的・動的様式
第８回	把握・非把握、動きの表記、静的・動的様式
第９回	・基本動作を対象にして観察、ROM 測定により運動の部分・相の確認、スケッチ、記述する。 ・グループで自分たちの選択した作業活動を分析する。
第10回	・基本動作を対象にして観察、ROM 測定により運動の部分・相の確認、スケッチ、記述する。 ・グループで自分たちの選択した作業活動を分析する。
第11回	・基本動作を対象にして観察、ROM 測定により運動の部分・相の確認、スケッチ、記述する。 ・グループで自分たちの選択した作業活動を分析する。
第12回	・基本動作を対象にして観察、ROM 測定により運動の部分・相の確認、スケッチ、記述する。 ・グループで自分たちの選択した作業活動を分析する。
第13回	グループで自分たちの作業を分析した結果を発表する
第14回	グループで自分たちの作業を分析した結果を発表する
第15回	試　験

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	基礎作業技法演習
代表講師	矢　形　あゆみ（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30 回（60 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法場面にて作業活動を提供した経験のある教員と専門家が、作業活動の目的・治療的応用・リスク管理、道具や材料の名称や用途について講義する。				
授業概要	各種作業活動の目的･治療的応用･リスク管理･道具や材料の名称と用途について講義及び演習を行う。				
到達目標	１．作業療法場面において対象者へ適切に作業活動を提供できるようになるために、作業の目的・治療的応用について説明できる。 ２．各作業に必要な道具・材料についてその名称や用途を説明できる。 ３．各作業道具の管理と作業空間の設定を安全に行い、場面ごとに応用することができる。				
成績評価の方法と基準	包括的作業分析ワークシート（50%）、筆記試験（50%）				
テキスト・教材等	『ひとと作業・作業活動　作業の知をとき技を育む　新版』『作業療法学全書第２巻基礎作業学』、各作業の配布資料				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	オリエンテーション・準備：作業療法に用いられる作業活動種目の紹介・各活動種目の特徴について	田河和代 矢形あゆみ 池田裕輔 川口航平
第２回	オリエンテーション・準備：作業療法に用いられる作業活動種目の紹介・各活動種目の特徴について	〃
第３回	革細工における作業工程	田河和代 川口航平
第４回	革細工における作業工程	〃
第５回	革細工における作業工程	〃
第６回	革細工における作業工程	〃
第７回	革細工における作業工程	〃
第８回	革細工における作業工程	〃
第９回	陶芸における作業工程	池田裕輔 川口航平 藤岡美憲
第10回	陶芸における作業工程	〃
第11回	陶芸における作業工程	〃
第12回	陶芸における作業工程	〃
第13回	陶芸における作業工程	〃
第14回	陶芸における作業工程	〃
第15回	さをり織りにおける作業工程	矢形あゆみ 宮田信一
第16回	さをり織りにおける作業工程	〃
第17回	さをり織りにおける作業工程	〃
第18回	さをり織りにおける作業工程	〃
第19回	さをり織りにおける作業工程	〃

回　数	授　　業　　内　　容	担当講師
第20回	さをり織りにおける作業工程	〃
第21回	タイルモザイクにおける作業工程	矢形あゆみ
第22回	タイルモザイクにおける作業工程	〃
第23回	タイルモザイクにおける作業工程	〃
第24回	ペーパークラフトにおける作業工程	田河和代
第25回	ペーパークラフトにおける作業工程	〃
第26回	ペーパークラフトにおける作業工程	〃
第27回	ペーパークラフトにおける作業工程	〃
第28回	グループ別に作業活動・各作業の包括的作業分析を行う	田河和代 矢形あゆみ 池田裕輔 川口航平
第29回	グループ別発表	〃
第30回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	基礎作業療法学演習Ⅱ
代表講師	渕　野　浩　二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員等が、対象者の生活機能に影響を及ぼしている疾患や障害の理解に必要な、臨床医学と作業療法の関連について講義する				
授業概要	作業療法に必要な臨床医学について、国家試験問題を中心にグループ学習を行い、要点の整理と講義・演習を行う。				
到達目標	・病理学、神経内科学、内科学、整形外科学、精神医学の病因、症状、治療について述べることができる。 ・疾患の病態について理解を深め、作業療法との関連に説明することができる。				
成績評価の方法と基準	小テスト（40 点）及び筆記試験（60 点）				
テキスト・教材等	『PT･OT 国家試験共通問題でるもん・でたもん［臨床医学］』、『標準理学療法・作業療法学　専門基礎分野内科学』、『病気が見える循環器』、『病気が見える脳･神経』、『病気が見える運動器･整形外科』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	内科学：循環器疾患①－急性心筋梗塞	池田裕輔
第２回	精神医学：小児期の精神障害①	矢形あゆみ
第３回	神経内科学：脳血管障害（出血、梗塞）、高次脳機能障害	渕野浩二
第４回	整形外科学：骨折・骨折の合併症	田河和代
第５回	内科学：循環器疾患②－心不全	池田裕輔
第６回	精神医学：小児期の精神障害②	矢形あゆみ
第７回	神経内科学：運動ニューロン疾患（上位運動ニューロン、筋萎縮性側索硬化症など）	渕野浩二
第８回	整形外科学：脱臼・靭帯損傷、末梢神経損傷	田河和代
第９回	内科学：呼吸器疾患①②－換気障害・慢性閉塞性肺疾患	池田裕輔
第10回	精神医学：小児期の精神障害③	矢形あゆみ
第11回	神経内科学：変性疾患（パーキンソン病、小脳疾患など）	渕野浩二
第12回	整形外科学：絞扼性神経障害、その他の末梢神経障害	田河和代
第13回	内科学：呼吸器疾患③－その他の疾患	池田裕輔
第14回	精神医学：てんかん①	矢形あゆみ
第15回	試　験	
第16回	内科学：循環器疾患③－その他の疾患	池田裕輔
第17回	精神医学：てんかん②	矢形あゆみ
第18回	神経内科学脱髄性疾患（多発性硬化症、ギランバレー症候群など）	渕野浩二
第19回	整形外科学：脊椎疾患、変形性関節症	田河和代
第20回	内科学：消化器疾患②－肝胆膵疾患	渕野浩二
第21回	病理学：炎症、免疫・アレルギー	池田裕輔
第22回	神経内科学：神経筋接合部疾患（重症筋無力症、ボツリヌス毒素など）	渕野浩二
第23回	整形外科学：関節リウマチ、骨粗鬆症、切断、スポーツ外傷	田河和代
第24回	内科学：代謝性疾患	渕野浩二
第25回	病理学：腫瘍、感染症	池田裕輔
第26回	神経内科学：筋疾患（筋ジストロフィーなど）	渕野浩二
第27回	整形外科学：骨端症、熱傷、その他の整形外科疾患	田河和代
第28回	内科学：内分泌疾患	渕野浩二
第29回	内科学：腎・泌尿器疾患	渕野浩二
第30回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	作業療法評価学Ⅱ
代表講師	渕　野　浩　二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、作業療法士に必要な評価能力を身につけるため、検査意義や一連の流れを踏まえ身体機能における基本的な知識と検査技術について解説および実技指導する。				
授業概要	学生自らが作業療法評価スキルを身に付けるために、グループを単位として主体的学習を行う方法である skill lab（スキルラボ）・PSI（個別化教授システム）学習方法を用い、資格教材を中心に自己学習を進める。				
到達目標	・作業療法評価における検査測定の意義を述べることができる。 ・感覚検査及び反射検査に必要な知識、技術を習得する。 ・徒手筋力検査の方法を理解し、技術を習得する。				
成績評価の方法と基準	事前小テスト（20%）、事後小テスト（20%）、レポート（患者家族への説明）（20%）、実技習熟度確認テスト（40%）				
テキスト・教材等	『《標準作業療法学 専門分野》作業療法評価学』、『新・徒手筋力検査法』、 『ベッドサイドシリーズ　ベッドサイドの神経の診かた』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	・PSI（個別化教授システム）についての概要説明。 ・各検査及び測定項目における事前学習と事前・事後テストについて ・反射検査の事前学習及び事前テスト．反射検査の意義と実施方法，判定についての説明．反射検査実技のスキルラボ．	渕野浩二 池田裕輔
第２回	反射・感覚検査：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト	〃
第３回	反射・感覚検査：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト	〃
第４回	反射・感覚検査：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト	〃
第５回	反射・感覚検査（総合的学習）	〃
第６回	徒手筋力検査（肩関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト	〃
第７回	徒手筋力検査（肘関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト	〃
第８回	徒手筋力検査（手関節・手指）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト	〃
第９回	徒手筋力検査（上肢の総合的学習）	〃
第10回	徒手筋力検査（股関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト	〃
第11回	徒手筋力検査（膝関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト	〃
第12回	徒手筋力検査（足関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト	〃
第13回	徒手筋力検査（下肢の総合的学習）	〃
第14回	徒手筋力検査（肩甲帯・体幹・その他）	〃
第15回	徒手筋力検査（肩甲帯・体幹・その他）	〃

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学概論
代表講師	髙　木　勝　隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）・院外講師				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として病院に勤務していた教員等が、対象者の評価、治療・指導・援助の経験を活かし、主要な作業療法理論と歴史的変遷に関する基本的知識について講義する。				
授業概要	主要な作業療法理論と歴史的変遷について、非常勤講師を含んで数名で講義する。				
到達目標	人間作業モデル，カナダ作業遂行モデル，AMPS，認知神経リハビリテーション，感覚統合理論，生活行為向上マネジメントの概要と範囲，評価と介入について，説明できるようになる.				
成績評価の方法と基準	筆記試験（67%）、レポート（5%）、AMPS・認知運動療法レポート（28%）				
テキスト・教材等	『作業療法学全書第１巻作業療法概論』『作業療法マニュアル 75（生活行為向上マネジメント）』、配布資料				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	作業療法理論　総論①　作業療法理論と歴史的変遷	髙木勝隆
第２回	作業療法理論　総論②　作業療法理論（事例演習）１	〃
第３回	作業療法理論　総論③　作業療法理論（事例演習）２	〃
第４回	生活行為向上マネジメント①　理論の概要と評価および介入	非常勤講師
第５回	生活行為向上マネジメント②　理論の概要と評価および介入	〃
第６回	カナダ作業遂行モデル　モデルの理解、具体的評価と介入	〃
第７回	人間作業モデル①　モデルの理解、具体的評価と介入	〃
第８回	人間作業モデル②　モデルの理解、具体的評価と介入	〃
第９回	AMPS　運動とプロセス技能評価の理解、具体的評価と介入	松本明人
第10回	AMPS　運動とプロセス技能評価の理解、具体的評価と介入	〃
第11回	認知神経リハビリテーション①　理論の概要と評価および介入	〃
第12回	認知神経リハビリテーション②　理論の概要と評価および介入	〃
第13回	感覚統合理論①　理論の概要と評価および介入	非常勤講師
第14回	感覚統合理論②　理論の概要と評価および介入	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅰ
代表講師	渕　野　浩　二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法経験のある教員が、神経難病領域における障害像・評価・作業療法アプローチについて TBL を用いて指導する。				
授業概要	TBL：Team-based Learning（チーム基盤型学習法）という教育法にて神経難病の作業療法を学ぶ。事前学習での知識が身についているか確認し、フィードバックによる知識の再確認と定着を図る。グループで問題発見と問題解決のための学習計画を立てる。問題解決のための思考力の養成を図ることができる。学習に必要な学習資源（文献・資料）も自分で適切なものを選択できるようになる。				
到達目標	・難病疾患（筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、Parkinson病の障害像を理解する。 ・各疾患の作業療法評価およびゴール設定、作業療法アプローチを作成することができる。				
成績評価の方法と基準	IRAT（25%）、TRAT（20%）、ピア評価（15%）、学習ポートフォリオ（10%）、応用演習問題（30%）				
テキスト・教材等	『作業療法全書第４巻　作業治療学１　身体障害』、『図解　作業療法技術ガイド』 『病気がみえる〈vol. 7〉脳・神経』				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	TBL オリエンテーション	渕野浩二 田河和代
第２回	ユニット１：多発性硬化症の疾患概要と障害像について（RAT）	田河和代
第３回	ユニット１：多発性硬化症の評価（RAT）	〃
第４回	ユニット１：多発性硬化症の作業療法アプローチ（応用演習問題）	〃
第５回	ユニット２：筋萎縮性側索硬化症の疾患概要と障害像について（RAT）	渕野浩二
第６回	ユニット２：筋萎縮性側索硬化症の評価（RAT）	〃
第７回	ユニット２：筋萎縮性側索硬化症の作業療法アプローチ（応用演習問題）	〃
第８回	ユニット３：Parkinson 病の疾患概要と障害像について（RAT）	田河和代
第９回	ユニット３：Parkinson 病の評価（RAT）	〃
第10回	ユニット３：Parkinson 病の作業療法アプローチ（応用演習問題）	〃
第11回	ユニット３：Parkinson 病の作業療法アプローチ（応用演習問題）	〃
第12回	ユニット４：ギラン・バレー症候群の疾患概要と障害像について（RAT）	渕野浩二
第13回	ユニット４：ギラン・バレー症候群の評価（RAT）	〃
第14回	ユニット４：ギラン・バレー症候群の作業療法アプローチ（応用演習問題）	〃
第15回	最終応用演習問題	渕野浩二 田河和代

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅱ
代表講師	髙　木　勝　隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として病院に勤務していた教員が、対象者の評価、治療、日常生活活動指導等の経験を活かし、主として整形外科疾患に対する作業療法に関する基本的知識について講義する。				
授業概要	運動器とは、身体活動を司る神経・筋腱・骨格・関節とそれを覆う皮膚、栄養に係る血管等を総称したものである。作業療法の対象となる疾患のうち、主として整形外科関連の対象に対して、疾患の基礎知識と作業療法評価、治療を講義する。				
到達目標	・手指の機能解剖を説明することができる。 ・関節リウマチの作業療法評価及び治療、指導、援助を説明することができる。 ・関節リウマチの手指変形発生機序を説明することができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（85%）、小テスト（15%）				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第 4 巻 作業治療学 1 身体障害』、『標準整形外科学』、『基礎運動学』、『作業療法技術ガイド』、『《標準作業療法学 専門分野》作業療法評価学』、配布資料				

回　数	授　業　内　容
第１回	手指の機能解剖：拇指の構造と運動に作用する筋と関節運動、腱と腱鞘
第２回	手指の機能解剖：手指の伸展機構
第３回	手指の機能解剖：手指の伸展機構
第４回	関節リウマチ疾患の基礎知識
第５回	関節リウマチに対する OT：関節リウマチ疾患の基礎知識
第６回	関節リウマチに対する OT：OT 評価（各評価項目における留意事項）
第７回	関節リウマチに対する OT：OT 評価（各評価項目における留意事項）
第８回	関節リウマチに対する OT：OT 評価（各評価項目における留意事項）
第９回	関節リウマチに対する OT：OT 評価（各評価項目における留意事項）
第10回	関節リウマチに対する OT：OT 治療（急性期、亜急性期、慢性期に応じた OT 治療）、関節保護法
第11回	関節リウマチに対する OT：OT 治療（急性期、亜急性期、慢性期に応じた OT 治療）、関節保護法
第12回	関節リウマチに対する OT：OT 治療（急性期、亜急性期、慢性期に応じた OT 治療）、関節保護法
第13回	関節リウマチに対する OT：OT 治療（急性期、亜急性期、慢性期に応じた OT 治療）、関節保護法
第14回	関節リウマチ手指変形の発生機序
第15回	試　験

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅲ
代表講師	矢　形　あゆみ（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	精神障がい領域における作業療法に携わった経験を持つ教員が、精神医療・歴史・精神の障がいについて説明し、精神障がい者に対する作業療法を提供するための応用的知識を講義する。				
授業概要	精神障がいに関する知識や対象理解、作業療法実践について資料や映像を用いて進める。				
到達目標	１．精神医療の流れ・歴史について説明できる。 ２．精神の障がいについて、具体的に述べることができる。 ３．精神障がい者に対する治療（自己・集団・構造・作業）について調べ、説明することができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（80％）、提出物（10％）、小テスト（10％）				
テキスト・教材等	『精神障害と作業療法』、『作業療法学全書　第５巻　作業治療学２　精神障害』、 『ひとと集団・場』、『ひとと作業・作業活動』、『標準理学療法学・作業療法学　精神医学』				

回　数	授　業　内　容
第１回	オリエンテーション 精神障がい・精神障がい者について
第２回	精神障害作業療法の基礎 精神医療の流れを理解する
第３回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 精神疾患処遇の歴史と作業療法の成り立ちを理解する
第４回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 ・疾患と病いについて理解することができる・精神の病いとは何か説明することができる ・リカバリーの概念から精神障がいを捉える
第５回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 精神障がいの特性について ・脆弱性について理解する・ICF の視点から考える
第６回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 回復過程とその状態に応じた作業療法を理解する
第７回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 精神認知機能の支障　７つのキーワードを列挙することができる
第８回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 精神認知機能の支障　７つのキーワードを説明することができる
第９回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 作業療法の治療構造を理解する
第10回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 ・作業，作業活動の要素を理解する ・作業，作業活動のもちい方を理解する
第11回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 自己の治療的利用について理解する
第12回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 療法集団の治療因子を説明することができる
第13回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 面接について理解する
第14回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 観察について理解する
第15回	試　験

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	日常生活活動学
代表講師	渕　野　浩　二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が，日常生活活動の概念･評価･援助方法について指導する。				
授業概要	人間の個人、家庭、社会へと広がる生活行為と作業療法を学び、人々が心身機能・構造の障害を改善・維持しながら生活行為を営むための概念及び基礎知識と評価を含む実践を講義します。				
到達目標	１．日常生活活動（ＡＤＬ）の概念および範囲を理解することができる。 ２．日常生活活動（ＡＤＬ）評価の目的・視点および方法を理解することができる。 ３．日常生活活動（ＡＤＬ）における指導・援助について理解することができる。 ４．作業療法の対象者における自助具・福祉用具の位置づけを理解することができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（100%）				
テキスト・教材等	『作業療法学全書改訂第３版 作業療法技術学３　日常生活活動』、『ＡＤＬとその周辺 第３版』、『脳卒中の機能評価　ＳＩＡＳとＦＩＭ』、『新・イラストによる安全な動作介助の手びき』				

回　数	授　業　内　容
第１回	（概論）ＡＤＬの概念および範囲、ＡＤＬの成り立ちと作業療法、ＡＤＬに対する作業療法の理念と役割
第２回	（ＡＤＬの評価法）行為の工程分析および動作分析の重要性、評価の視点、判定レベル
第３回	self care（食事）（整容）動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価
第４回	self care（排泄）動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価
第５回	self care（更衣）動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価
第６回	self care（入浴）動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価
第７回	起居・移乗・移動 動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価
第８回	self care の実技指導のポイント
第９回	脳血管障害のＡＤＬ（食事、整容、清拭）評価（ＦＩＭ）の視点及び指導・援助のポイント
第10回	脳血管障害のＡＤＬ（更衣、トイレ動作）評価（ＦＩＭ）の視点及び指導・援助のポイント
第11回	脳血管障害のＡＤＬ（排尿管理、排便管理）評価（ＦＩＭ）の視点及び指導・援助のポイント
第12回	脳血管障害のＡＤＬ（移乗、移動）評価（ＦＩＭ）の視点及び指導・援助のポイント
第13回	脳血管障害のＡＤＬ（コミュニケーション）評価（ＦＩＭ）の視点及び指導・援助のポイント
第14回	脳血管障害のＡＤＬ（社会的認知）評価（ＦＩＭ）の視点及び指導・援助のポイント
第15回	試　験

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	義肢装具学
代表講師	本　田　智　裕　（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士業務に携わった経験を持つ教員が、作業療法士を目指す者に義肢装具の基礎、中でも上肢装具・義手について講義する。				
授業概要	義肢装具の種類・分類・機能について講義する。				
到達目標	義肢装具の中で、特に上肢装具・義手について理解し説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100％				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第９巻作業療法技術学１　義肢装具学』、配布資料				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	装具総論（装具とは？、装具の種類・分類）	本田智裕
第２回	体幹装具（脊椎の外傷・疾患に対する装具の種類と適応）	〃
第３回	下肢装具（種類と適応・装具歩行について）	〃
第４回	その他の補装具（車いす・座位保持装置・杖）	〃
第５回	上肢装具①（神経系疾患と上肢装具の適応）	〃
第６回	上肢装具②（整形外科疾患・外傷と上肢装具の適応）	〃
第７回	義肢総論（義肢とは？義肢の名称と分類）	石内寛丈
第８回	義足総論（義足構成要素の特徴と適応）	〃
第９回	義手総論（上肢の機能、義手の分類、義手の構造）	〃
第10回	義手のソケット（切断部位とソケットデザイン）	〃
第11回	義手の構成要素①（手先具、手継手、肘継手）	〃
第12回	義手の構成要素②（コントロールケーブルシステム、ハーネス等）	〃
第13回	義手の適合判定（検査項目、問題と原因など）	〃
第14回	切断総論（切断者のリハビリテーション等）	〃
第15回	試　験	

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	ファシリテーション演習Ⅱ
代表講師	矢　形　あゆみ（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講　義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授業概要	一切指示や課題が与えられない非構成的状況で、自己と他者と集団への感受性を高める。				
到達目標	１．相手の話を聞き、反応し、提案し、質問することができる。 ２．「今」「ここで」、自己が模索しながら防衛を緩め、行動変容することができる。 ３．自己の変化・成長に気づき、受容することができる。 ４．他者と集団の変化・成長に気づき、受容することができる。				
成績評価の方法と基準	自己評価（40％）・ファシリテーターによる評価（20％）・レポート（40％）				
テキスト・教材等	配布資料				

回　数	授　業　内　容	担当講師
第１回	オリエンテーション（エンカウンターグループについて・心理検査・記録） ＊「エンカウンターグループ」について事前に調べて理解しておくこと.	矢形あゆみ
第２回	セッションⅠ 感受性のセンサーを高くのばす	非常勤講師
第３回	セッションⅡ 感受性のセンターを高くのばし，相手の言葉やサインを感じとる	〃
第４回	セッションⅢ 感受性のセンターを高くのばし，相手の言葉やサインを感じとる	〃
第５回	まとめ・記録 セッションを終えてのまとめ（自分自身およびグループに対する感想）	〃
第６回	セッションⅣ 感受性のセンターを高くのばし，感じたことを率直に言葉に表現する	〃
第７回	セッションⅤ 感受性のセンターを高くのばし，感じたことを率直に言葉に表現する	〃
第８回	セッションⅥ 感受性のセンターを高くのばし，感じたことを率直に言葉に表現する	〃
第９回	セッションⅦ 感受性のセンターを高くのばし，感じたことを率直に言葉に表現する	〃
第10回	セッションⅧ 感受性のセンターを高くのばし，感じたことを率直に言葉に表現する	〃
第11回	まとめ・記録 セッションを終えてのまとめ（自分自身およびグループに対する感想）	〃
第12回	セッションⅨ 本音のやりとりから，自分と他者の新しい出会いと発見をする	〃
第13回	まとめ・記録 全てのセッションを終えてのまとめ・発表の準備	〃
第14回	発表・総評 グループの変化の経緯や成長の過程を発表する・ファシリテーターからの総評	〃
第15回	後記録 エンカウンターグループを終えての感想・心理検査	矢形あゆみ

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	臨床実習	科目名	見学実習Ⅰ（身体機能系）
代表講師	池　田　裕　輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	実　習	単位数	1	学期・回数	後期（40 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な視点・能力を身に付けるために、病院・施設の臨床現場において、実習指導者の指導の下、対象者および作業療法評価・治療の見学、情報の整理を行う。				
授業概要	作業療法場面の見学を通して、作業療法の対象疾患や治療・指導・援助の内容について理解を深める。また、担当事例の検討を通して、作業療法対象者を生活者として全体像をとらえる視点について学ぶ。さらに社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上・充実を図る。				
到達目標	作業療法場面における作業療法の対象疾患・治療・指導・援助の見学を通して、以下のことができるようになる。 １．職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 ２．記録・報告をすることができる。				
成績評価の方法と基準	作業療法参加型臨床実習チェックリスト、臨床教育者（CE）による学生の実習経験状況評価、実習ポートフォリオ、デイリーノート、出席簿、学院へのフィードバック、臨床実習振り返りシート、臨床実習ガイド、実習前セミナーの出席状況・提出物、および実習終了後の確認試験をもって総合的に判断する。（100%）				
テキスト・教材等	特になし				

期　間	授　業　内　容
１週間	学外実習後のスケジュールに従った実習 〈実習期間〉 2024 年 2 月 19 日（月）～ 2 月 22 日（木）または 2024 年 2 月 26 日（月）～ 3 月 1 日（金） 〈実習内容〉 ・オリエンテーション：施設概要説明、施設内見学及び挨拶、ＯＴ部門見学（含管理面） ・臨床見学： １）検査器具、訓練器具の名称およびその使用法 ２）ＯＴスタッフの評価やプログラムへの同席 ３）他部門の見学（ＰＴ部門、ＳＴ部門、ＣＰ部門、看護部門の業務の流れと役割など）、病棟回診・リハ回診への参加 ・まとめと反省：フィードバック、臨床教育者と学生との意見交換、施設各部門への挨拶

学　　科	作業療法学科 ２年次	教育 内容	臨床実習	科目名	見学実習Ⅱ（精神機能系）
代表講師	池　田　裕　輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	実　習	単位数	1	学期・回数	後期（40 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な視点・能力を身に付けるために、病院・施設の臨床現場において、実習指導者の指導の下、対象者および作業療法評価・治療の見学、情報の整理を行う。				
授業概要	作業療法場面の見学を通して、作業療法の対象疾患や治療・指導・援助の内容について理解を深める。また、担当事例の検討を通して、作業療法対象者を生活者として全体像をとらえる視点について学ぶ。さらに社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上・充実を図る。				
到達目標	作業療法場面における作業療法の対象疾患・治療・指導・援助の見学を通して、以下のことができるようになる。 １．職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 ２．記録・報告をすることができる。				
成績評価の方法と基準	作業療法参加型臨床実習チェックリスト、臨床教育者（CE）による学生の実習経験状況評価、実習ポートフォリオ、デイリーノート、出席簿、学院へのフィードバック、臨床実習振り返りシート、臨床実習ガイド、実習前セミナーの出席状況・提出物、および実習終了後の確認試験をもって総合的に判断する。（100%）				
テキスト・教材等	特になし				

期　間	授　業　内　容
１週間	学外実習後のスケジュールに従った実習 〈実習期間〉 2024 年 2 月 19 日（月）～ 2 月 22 日（木）または 2024 年 2 月 26 日（月）～ 3 月 1 日（金） 〈実習内容〉 ・オリエンテーション：施設概要説明、施設内見学及び挨拶、ＯＴ部門見学（含管理面） ・臨床見学： １）検査器具、訓練器具の名称およびその使用法 ２）ＯＴスタッフの評価やプログラムへの同席 ３）他部門の見学（ＰＴ部門、ＳＴ部門、ＣＰ部門、看護部門の業務の流れと役割など）、病棟回診・リハ回診への参加 ・まとめと反省：フィードバック、臨床教育者と学生との意見交換、施設各部門への挨拶